

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2022.08.No300

8月号

目次

3年ぶりの青年建築士の集い in 室蘭.....	1
特集.....	2
・令和3年度北海道赤レンガ建築賞 ・令和3年度北海道赤レンガ建築奨励賞	
女性の窓.....	6
[No.106 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Coffee Break.....	7
information.....	8

URL <https://www.h-ab.com/>

3年ぶりの青年建築士の集い in 室蘭



青年副委員長 亀田 誠 (日高支部)

今年の「青年建築士の集い」(以下、「集い」)は、5月28日(土)に「炭・鉄・港」で注目を集める鉄のまち、室蘭市の旧絵鞆(えとも)小学校円形校舎及び生涯学習センターきらんで開催され、厚真大会以来3年ぶりの開催となりました。

参加者のみなさまには集いに安心して参加いただくため、手指消毒やマスクの着用は従来どおり行ったうえで、口腔液・唾液採取によるペン型の抗原検査キットにより陰性であることを確認してから参加いただきました。

第一部としてむろらん100年建造物保存活用会の三木真由美氏をガイドに円形校舎の施設見学を行いました。旧絵鞆小学校は、正円平面の外周と内周に柱を均等に配置する円形のラーメン構造の建物で、各室は扇形に仕切られ円の中心側に黒板を設置し背後から採光する作りです。中央ホールにあるらせん階段や体育館棟の屋根の鉄骨組は魅力的で、今でいう「インスタ映え」スポットでもあります。



体育館棟の屋根の鉄骨組

第二部は、生涯学習センターきらんに会場を変え、札幌支部による地域実践活動の報告が行われました。本来ならば10月に秋田県で開催される全国大会青年セッション「地域実践活動発表会」の北海道ブロック代表を決める選考会に集いは位置付けられていましたが、青年会員の減少等により活動に陰りが

見え始めたことから、活動が活発な札幌支部による地域実践活動(子どもたちを対象とした間取りWebパズル)を聞き、地域に根ざした建築士としてなができるか、今後の活動の方針を考える場としてグループに分かれてのワークショップもあわせて行いました。



ワークショップの様子

集い終了後の懇親会は、ビアキャビンにてジンギスカンとビールを堪能するとともに、久々の仲間と語り合うことができる貴重な時間となりました。



久しぶりとなった懇親会の様子

最後に開催支部の室蘭支部、手伝い等協力いただきました道南ブロックのみなさまには感染対策に大変お忙しい中、ご協力をいただき集いを成功させることができました。本当にありがとうございました。

令和3年度 北海道赤レンガ建築賞

mother's+



□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

畜産と林業を主要産業とした白老町は、近年は歴史・食文化・温泉などの地域資源を活用した観光業にも力を入れている。一方で我々の生活は多くの動植物の犠牲のうえに成り立っており、「アニマルウェルフェア（動物福祉活動）」が世界的な流れとなりつつある。これに「グリーンツーリズム」「産業6次化」を加えた、3つのSDGsに関連する思想に基づくパイロットファームをマスタープランとして策定し、その中核施設を“マザーズプラス”として計画した。林業の復活とこれからの畜産業のありかた、これによる新しい農村の風景がどのようなものかを模索した。

□設計の特徴

アニマルウェルフェアに基づき鶏を屋外で放牧し、マザーズプラスでは鶏卵の選別と店舗での加工販売を行う。つまり1次産業から3次産業までを統合し経営の多角化ひいては農村の活性化を目指す産業6次化を実現している（6 = 1 + 2 + 3）。建物は地元産業への貢献として主な架構を胆振地方で伐採したカラマツ材としインテリアとして見せている。作業プロセスを見せるため工房棟は全面ガラスとした。木造モノコックの中にガラスボックスを挿入することで、自然素材と工業製品が対比したそれぞれの美しさの引き立つ印象的なインテリアとした。グリーンツーリズムに基づく農業体験施設や宿泊施設を将来計画としている。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

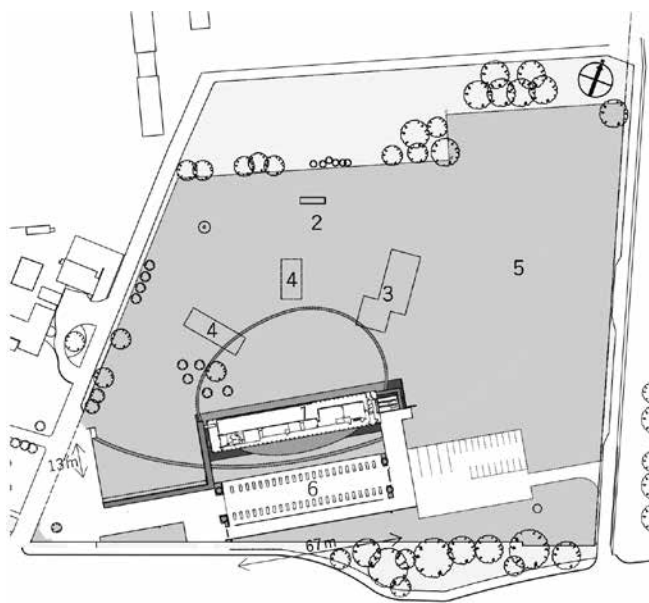
地域やプロジェクトに固有の「素材」「かたち」「手法」を尊重し計画と施工の融合したデザイン手法を「Local Fabrica-tion」として展開した。素材/地産地消に基づき、外構には白老川流域より採取した石材を用い、すべての木材は北海道のカラマツとトドマツで構成した。かたち/建物形状は鶏舎をモチーフとするシンプルなモノコックとした。方杖やタイバーを用いないシンプルな木フレームとするため、仕口に鋼棒を挿入する「GTR工法」を採用し、13mスパンの無柱空間とした。手法/鶏のシルエットをシンボル化するのではなく、アプローチの床仕上げに足跡を刻印した。硬化前のコンクリートの上を自由に歩行してもらい、フレスコ画のようなワンオフの作品である。彼女たちにとり自然光のもとでの自由な歩行は初めての経験である。施工中は建物全体をシートで囲う通常の工事計画ではなく、建設の過程がよくわかる移動式足場による施工とした。ユニークな架構形式とともにダイナミックなものづくりの魅力を発信し、地域に愛される施設を目指した。

□完成後の地域への貢献度等

豊かな地域資源の魅力発信とこれらを活用した産業の活性化と雇用の促進、そして世代間における地域文化の継承を促し、持続可能な社会に貢献している。サッカーコートはもともと敷地にあったものを残し、引き続き地域のスポーツ活動の拠点とした。明るい日差しのもと動物と子供たちが活動するこの風景が、サステイナブルな社会にふさわしい農村風景となるかもしれない。

■建築主 (有)北海道種鶏農場
■設計者 竹中工務店北海道一級建築士事務所支店
■施工者 竹中工務店北海道支店

■建築物の概要 所在地 白老郡白老町字社台289番地1
 主要用途 物販店舗
 構造及び階数 木造(一部鉄骨造) 2階建
 建築面積 891.02㎡
 延べ面積 887.71㎡
 竣工年月日 令和2年2月28日



マスタープラン「ヨコスタンチ」

<凡例>	4 体験施設*
1 mother's+	5 サッカーコート
2 移動式鶏舎	6 駐車場
3 宿泊棟*	*マスタープラン



□受賞のことがば

建築主 有限会社北海道種鶏農場 代表 川上 一弘

道内にて、養鶏一筋90年という社史の中で一次産業から二次、三次産業へと業態を少しずつ広げ、六次化産業のシンボルとして建築した「マザーズプラス」がこの度、栄誉ある令和3年度北海道赤レンガ建築賞を受賞することになり、社員一同大変光栄に存じます。施設建築における建築資材のみならず、「卵」を切り口に地産地消に取組み、白老町内はもとより近隣の皆様に末永く愛される施設として、地道に取り組んで参りました点も評価していただいたものと推察いたします。今後は、「マザーズプラス」を訪れる皆様により親しみと好感を持っていただけますよう従業員一同精進して参りたいと思います。

設計者 竹中工務店北海道支店 設計部長 酒向 昇、設計部課長 横尾 淳一

このたびは赤レンガ建築賞に選定いただき、ありがとうございます。SDGsにもとづき、これからの北海道のすむべき指標となる“グリーンツーリズム”“産業6次化”“アニマルウェルフェア”という3つの思想をかたちにしたのが今回のパイロットファームです。中核施設の「mother's+」には白老のトドマツを用い、建物のかたちは地域になじんだ鶏舎をモチーフとしました。敷地内には近隣の方々が集うサッカーコートを残しており、子どもたちは放牧されているニワトリと同じフィールドで活動しています。これが動物と人の共存するあたらしい農村の風景ではないかと考えました。オープン後はコロナの影響にもかかわらず地域を超えた多くの方々にぎわっており、とても感謝しております。この受賞を励みとし、より一層、地域社会の発展に貢献する建物を創り出してゆきたいと思えます。簡単ですが受賞者代表の言葉とさせていただきます。

施工者 竹中工務店北海道支店 支店長 西居 昭彦、作業所長 谷口 昭彦

北海道を代表する最高の建築賞をいただき、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。当プロジェクトはたまご(鶏卵)の生産である1次産業を中心に、自社での加工となる2次産業及び販売する3次産業を行う建築主の事業を集約する6次化となる建物を建設するものであり、地元地域住民や多くの観光客が立ち寄り、集う『自然との共生と地元への貢献』をもたらす仕事に関わることができましたこと、大変光栄に感じています。工期内に無事完成することができたのも、ひとえに関係者の皆様のご協力とご支援がなくてはなしえなかったと思います。そして今、お店を訪れるお客様や道外からの観光客の方々を目にするたび、このような賞をいただけたことに無上の喜びを感じてやみません。今後もより一層、建築主そして多くの皆様の想いをかたちにすることで、建築を通したまちづくりに貢献してゆけるよう努めてゆく所存でございます。

令和3年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

ニセコ町役場庁舎

■**建築主** ニセコ町
■**設計者** (株)アトリエバンク
(有)金箱構造設計事務所
■**施工者** (建築主体) 泰進・浦野・石塚特定建設工事共同企業体
(電気設備) 樋口・本間特定建設工事共同企業体
(機械設備) 藤井・浦野・本間特定建設工事共同企業体

■**建築物の概要**
所在地 北海道虻田郡ニセコ町富士見55番地
主要用途 事務所(役場庁舎)
構造及び階数 RC造 地下1階 地上3階建
建築面積 1,697.70㎡
延べ面積 3,374.22㎡
竣工年月日 令和3年3月19日



□企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

「ニセコ町役場庁舎」は役場庁舎と防災センターを複合化した防災拠点施設で、SDGs未来都市・環境モデル都市を標榜するニセコ町のまちづくりの拠点となる中核施設です。主要公共施設が集約された中心市街地の結節点となることを目指し、ポケットパークや展示スペース、フリースペース等を整備し、町の情報発信や町民が気軽に利用できる庁舎として計画しました。基本計画段階からワークショップや町民説明会を重ね住民参画を図りました。地域の子供たちと採取した敷地の土を使用したレンガや、地元作家によるオリジナル家具、アート、グリーンアレンジメント等、地域との協働を図り町民に親しまれる計画としました。

□設計の特徴

歩いてまわれる街の結節点になり町の魅力発信を体現する庁舎を目指しました。町民サービス窓口全てを1階に集約、町長室等の執務の中核を2階、羊蹄山の大パノラマが広がる3階に多目的利用が可能な平土間円形議場を配置しました。力強いRC躯体をあらわしにした空間に町の木であるシラカバを床・壁仕上げに採用し共用部には町内家具作家による木製家具を数多く配置しました。冬季には雪庇被害が深刻な課題となります。1階屋根を大きくし、2、3階のポリュームを絞ることで、落雪を1階屋根で受け止め歩行者を守る豪雪地帯ならではの特徴的な断面を採用しました。『SDGs未来都市』に認定されたニセコ町はCO2排出量の大幅削減目標を掲げており外皮性能0.18W/m²Kと全国の庁舎でもトップレベルの省エネ性能としました。外部サッシは全て木製としアルゴンガス入 Low-Eトリプルガラスを採用、壁・屋根面には高性能フェノールフォーム200mm相当の高い断熱性能を確保し、冷暖房負荷の徹底削減を図っています。

□施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

特徴的なRC躯体は表して、斜め梁等の取り合いが複雑な部分があり、配筋、型枠、打設の各工程で品質管理、施工に十分配慮しました。鉄骨階段は施工図作成から工場製作、現場搬入施工といった夫々の過程における品質管理や工程管理を徹底し工事を進めました。レンガ、板金、サッシ、シラカバ合板等、割付や納まりを施工図段階で設計者と綿密に打合せ施工に反映させました。

□完成後の地域への貢献度等

備蓄や災害対策室といった町の防災拠点機能が整備され町の防災体制の強化に繋がりました。広く明るくわかりやすい執務室は窓口業務や町行政の円滑化、透明化に繋がり住民サービスの向上に寄与しています。車いす通行可能な十分なゆとりのある執務空間や作業・打合せ環境の充実、居心地のよい給湯室等、町職員の職場環境も格段に改善しました。1階の展示コーナーでは打合せ、バス待合やギャラリー見学、放課後の学習等に利用され、3階のフリースペースは羊蹄山やアンブリがパノラマで一望でき、職員の休憩や住民のリモートワーク等にも利用されています。行政手続きだけでなく気軽な利用が促され町民に長く親しまれる庁舎として動き始めています。

令和3年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

結いの社屋 ～ 小金澤組新社屋

■建築主 (株)小金澤組

■設計者 (株)アカサカシンイチロウアトリエ

■施工者 (株)小金澤組

■建築物の概要
所在地 苫小牧市ウトナイ南8丁目4番8号
主要用途 事務所
構造及び階数 木造2階建
建築面積 421.48㎡
延べ面積 600.08㎡
竣工年月日 令和2年6月20日



□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

北海道胆振地方を拠点に総合建設業を営む企業の新築移転計画。これまで以上に人材確保が難しくなりつつあるこの業界・地域にある老舗企業として、広域から様々な人材が集まり、働き続けたいと思える「訴求力」を持つ施設が求められた。

□設計の特徴

多くの人材に魅力を感じてもらえる職場の在り方として、組織としての一体感を持ちつつ、個人の特性を引き出す多様な働き方を受容できるオープンな空間構成が有効だと考え、1階オフィス上をほぼ吹き抜けとし、その外周を2階オフィスが取り囲む空間構成を提案した。

2つの階段、ブリッジ、廊下を兼ねた会議室を巡る行き止まりの無い動線沿いに、光や風、緑などを感じさせるラウンジやライブラリーといった、社員が溜まりやすい「結び目」を用意した。ここが多様な働き方の実践や社員間のセッションを促し、企業運営に参加している実感を持てる場＝働く人々への訴求力を持つ場になると考えた。また、敷地が工業系と住居系用途地域の境界に位置していることから、社屋を地域に開き、周辺住民との「結び目」を生み出す工夫もした。具体的には、向かい合う住居系地域にある遊歩道の要素を取り込んだ「パブリックガーデン」を敷地内に設け、近隣住民が自由に散策でき、社員の働く姿を見てもらう機会を増やすとともに、進行中のプロジェクトやイベント等を紹介する掲示サインを植栽間に設置し、地域に向け企業イメージを発信できる建築とした。1階「セッションホール」は周辺緑地と視覚的に連続し、引き戸を開け放つと「パブリックガーデン」の一部となり、普段はフリーアドレスのワークスペースでありながら、プランターを移動させれば100人規模の安全大会やセミナー等の開催の他、災害時には地域の避難場所としても使用できる設えとした。1FLは周辺宅地よりも700mm程度高く設定（対水災）。周辺風景の連続性を考え、建物高さは向かい合う住宅群と同程度に抑えている。1階は植栽に馴染みやすい道産の杉材、2階は曇天の多い苫小牧の空に溶け込むグレーの左官材で、その色やシルエットは、地域のシンボルである樽前山を想起させる。

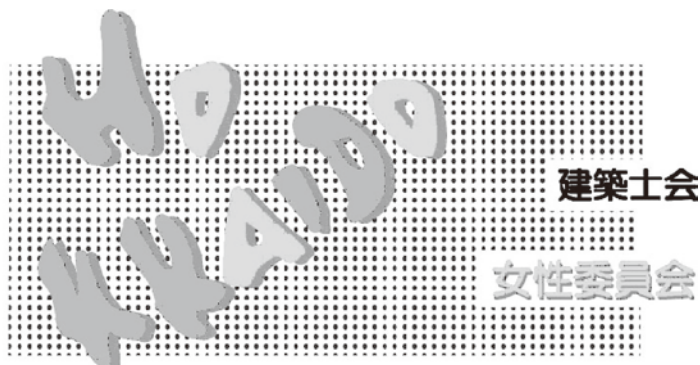
□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

外断熱を施した基礎部分に蓄えた熱を、床下・壁内・天井裏などに循環させ、内部仕上面からの低温輻射によって全館無風暖房としている。

□完成後の地域への貢献度等

近隣住民も参加可能な音楽会やレクチャー等も企画予定していたが、コロナ禍の影響で現在は自粛中。しかしながら地元小学校から建物見学の要望があったり、社屋横でのキッチンカーを利用したイベント企画の持ち込みがあったりと、一企業の社屋としてだけでなく、地域貢献できる情報発信施設となり得る兆しが既に見え始めている。

No. 106



旭川支部女性委員会 見学会

赤木 希好 (旭川支部)

開催日時：

令和4(2022)年4月20日(水)

10:00~14:00

見学会東川町「KAGUの家」

参加者12名

久しぶりの見学会が、東川町の隈研吾設計の建物という事で、興味津々で参加しました。

市街地に建つ4つの建築物は少しずつ距離を取って配置され、どれもシンプルな大きな片流れ屋根と木の外装材が特徴的でした。

「KAGUの家」と称するそれらの施設はサテライトオフィスで、月単位の賃貸物件だそうです。

暖炉・旭川家具のソファや大きなテーブルを囲む共有部と、ワークスペースが12席。

1棟に1社、或は1棟に異業種の会社や個人が入るなど、どんな使い方になるのかも興味がわくところです。ITの進化とコロナ禍で働き方が大きく変化したのを感じました。

中に入ると更に「木」が表面を占めており、一般の事務所や住宅とは違って仕上げは躯体の構造用合板そのまま。塗装で着色したり、クロス貼りなどの細工はありません。トイレの建具やキッチンも造作されて、手作り感満載です。既製品の住設機器・造作部材を使うことに慣れてしまっているの、逆に新鮮にも感じられました。解体する時、分別が少なくなくて済むかもしれませんね。

【面白かったところ】

- ・耐力壁の一部でもあるワークスペースの机
- ・ネックレスに見えるLEDテープライトの照明
- ・埋め込まないダウンライト
- ・換気口のプラスチックを隠すための合板
- ・床置き冷暖房エアコン

みんなの特に気になるところは「構造」です。筋交いの無い大空間の作り方や断熱について、製本された「設計図書、竣工図」を見て、役場の担当の方にはたくさんの質問にも答えていただきました。時間が許せば、もっとじっくり図面を見ていたかったです。

東川町ではこの後も、隈研吾設計との仕事を計画するそうなので、完成を楽しみにして、次の見学会にも期待したいです。



役場職員から説明を受ける参加者



内部の説明を受ける参加者

地域活動を通じて

吉田 幸恵 (室蘭支部)

2013年より地元の歴史的建造物を大切に思う市民有志と市民団体を作り、活動している。当初は、室蘭市内に残る歴史的建造物を調査しマップなどを作成し、そのマップを見ながら『まちあるき』を行ってきた。日々の暮らしで見落としがちなモノが『まちあるき』を通じて発見できる。個性的で、作った人住む人使う人の思いが入っている建築ばかりである。この市民活動や『まちあるき』を通じて、たくさんの方とつながりができたのが私の財産になっている。仕事や生活のなかでは決して出会うことが出来なかった人たち。個性的でマニアックな知識をもち、話しが尽きない。趣味らしい趣味もない私にとっては彼らとの語らいが楽しい時間になる。またここ数年は、この活動のほかに『まちづくり』『アートプロジェクト』の活動にも関わっている。まちづくり活動では高校生や大学生の若い子達と『まちあるき』を行っている。最近の若者は『まちづくり』に興味があるらしく、彼らから見た『まち』への視点や意見から若者達の『まち』を思う気持ち伝わり、とても嬉しくなる。昨年行われたアートプロジェクトでは、市内の歴史的建造物の中にアートが期間限定で展示され、通常都会に行かなければ鑑賞出来ない現代アートに出会うことが出来、子供から大人まで知的好奇心を満たすイベントになったと思う。今年は8月10日から14日まで、歴史的建造物の内部に加えて市民美術館内部や空き地にアート作品が現れる予定だ。ぜひ、室蘭にいらしてください。私の団体でも連動企画として室蘭ユースホテル50周年記念の『田上義也を知る講演会』を行う予定だ。最後は宣伝のようになったが、市民活動は楽しいライフワークのひとつである。

上富良野支部

withコロナ時代のイベント

青年委員

森井 忍



我が支部のある上富良野町は、北海道のほぼ中心に位置する風光明媚なまちです。

「四季彩のまち」とも言われている上富良野町は、春には鮮やかなピンク色の桜並木、夏には一面紫色のラベンダー畑、秋には黄金色に染まる美しい紅葉の景色を見ることができます。

また、富良野盆地特有の昼夜の寒暖差を活かして、様々な美味しい農作物が作られている農業の盛んなまちでもあります。

そんな豊かな自然環境を活かして、コロナ禍以前はラベンダーや紅葉、農作物の収穫の時期に合わせたお祭りや、北海道唯一のホップ産地でもある上富良野町ならではのビールパーティ、厳冬期に行われる雪まつりなど四季折々様々なイベントがあり、町内外からたくさんの方が訪れ賑わっていました。しかし、近年は新型コロナウイルスの影響で町内のイベントはほぼ中止となりました。

Withコロナとして活動が制限される中、イベントは今後どう変わっていくのか。

先の見えないコロナ禍で、去年は新しい取り組みとして桜並木とラベンダー畑を音と光で表現し、ライトアップを行いました。昼と夜では同じ景観でも演出の方法が異なればまた違った景色が見られます。

昼間の青空の下で見る元気で鮮やかな花々とは全く違う、神秘的で幻想的な雰囲気を楽しむことができました。

従来の「集い、食べ、呑み、歌い、踊り」の賑やかなイベントから、五感で楽しむイベントへと変化したことで、上富良野町の豊かな自然を再認識するきっかけにも

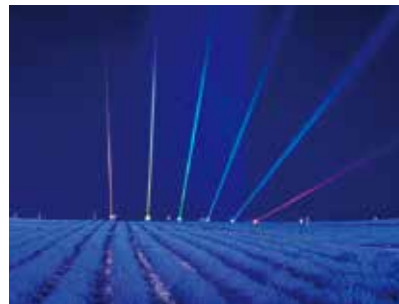


桜並木のライトアップ

なったと思います。そして、同時にこの恵まれた景観をそのまま活用し、ただ待つだけではなく、仕掛けていく必要性も感じました。

我々建築士会の活動でも、研修会やビールパーティなど会員同士の交流事業は残念ながら中止となりましたが、沿道に花を植える植栽事業や駅前通りの広場を明るく照らすイルミネーションの設置事業など、見る人々が癒され、五感で楽しんでいただけるような活動を行ってきました。

今後もWithコロナ、Afterコロナとまだ先は見えませんが、今の時代にできることを模索し、地域の活性化のために尽力したいと思います。



ラベンダー畑のライトアップ

北見支部

私と建築士会について

事務局長

平塚 純一



私が今の職場（市役所）に中途採用として就職して15年が経ちます。建築士会には上司の入れ替わりとしての入会だったので転職の際に退会しようと届出も出していましたが市役所の配属先と思われる部署から当時の勤務先に連絡があり、「市役所に入っても建築士会するでしょ？」と聞かれ「退会でなく勤務先の変更にしておくれ」と言われ、いまでは事務局長になって6年になります。市役所の建築技術職員は建築士会に全員入会しており、今も20~30代の支部会員の7割以上が市職員です。民間企業の若い方の入会が少なく建築業界での若手が少ないのも現実です。北見支部でも建築に興味

を持ち将来建築の道に進んでくれればありがたいと思い工業高校生を対象とした出前講座を毎年行っています。また、北見支部では毎年建築士の日の事業としてビールパーティを開催していました。北見市はビールパーティが盛んで7月から8月末にかけて週末は毎週のようにビールパーティが開催されています。北見支部でビールパーティを始めたのが昭和53年からで当時は青年部の事業でした。平成19年から親会事業に移り、かれこれ今年で45年になります。私が生まれる頃から行っているのが事業としては一番歴史があります。ここ数年は市内のビールパーティもコロナにより開催しておらず今年こそはと思っていたのですが例年行っている団体も中止してしまいました。毎年開催することを前提で予算書を作成して

いましたが、ビールパーティの収益が全体収入の半分近くを占めているので中止となると収入が減り他の事業が出来なくなります。それでもなんとかやり繰りをしながら支出がなるべくかからないように事業をしようと毎年頭を悩ませています。今年は昨年みたくコロナを理由に事業を中止にと考えましたが、最近では感染者が減ってきており世の中でも少しずつだがコロナ前になりつつあります。早く消毒やマスク生活におさらばしたいです。



盛況だった頃のビールパーティ

道士会の動き

道本部の主な会議報告（7月）

◆第2回代議員選挙管理委員会

〈開催日〉12日(火)

- 1) 一般社団法人北海道建築士会 代議員選挙の告示
- 2) 代議員選挙に係る各種様式
- 3) 代議員選挙の信任投票の通知
- 4) その他

◆第2回情報委員会

〈開催日〉30日(土)

- 1) 会誌「北海道建築士」
・令和5年1月以降の掲載記事を策定
- 2) 全道大会（空知大会）号外
- 3) その他

本部の主な行事予定（8月）

- 1日(月) 第3回総務・企画委員会
 18日(木) 第3回女性委員会小委員会（web開催）
 20日(土) 第2回事業委員会
 20日(土) 第2回まちづくり委員会
 22日(月) 第3回代議員選挙管理委員会
 26日(金) 第4回理事会

講習会・セミナーのご案内（8月）

監理技術者講習

10日(水) 札幌市

BIMハンズオンセミナー

24日(水)、25日(木) 札幌市

札幌支部からお知らせ

令和4年 二級建築士設計製図受験者講習会

開催会場 かでの2・7 540研修室
 （札幌市中央区北2条西7丁目）

開催日時 8月28日(日)・9月4日(日)
 9:00~15:30

定員 10名

編集後記

今年の夏は、去年に続き、暑くなりそうですね。我が家では
 昨年の暑さに耐えられずリビングにエアコンを設置しました。
 しかし、年々高くなる電気代におびえてなかなかスイッチを入
 れることができず、暑さと電気代どちらをとるか悩みどころです。

電気料金高騰や国のカーボンニュートラルの取組が進んでお
 り、新築や改修計画の際には、省エネ・創エネ設備の検討など、
 様々なことを考えていかなければならなくなりました。電気や
 機械設備についてもある程度理解していなければならないた
 め、設備図面をみながら、見慣れない凡例と格闘しています。
 情報委員会 角張 隆昌（旭川支部）

(公社)日本建築士会連合会 各委員会委員名簿 (令和4・5年度)

委員会名		支部名	委員氏名
総務・企画委員会	委員	苫小牧	佐藤 芳則
	委員	日高	高橋 幸二
法制度本委員会	委員	苫小牧	中原 茂人
教育・事業本委員会	委員	札幌	西岡 誠
まちづくり委員会	委員	札幌	清水 浩史
青年委員会	委員	小樽	近藤 真人
女性委員会	委員長	小樽	本間 恵美
	委員	旭川	齊藤 裕美
CPD/専攻建築士 制度委員会	委員長	札幌	高野 壽世
	委員	札幌	久島 正嗣
	委員	札幌	菊地 義紀
役員候補者選考委員会	委員	札幌	高野 壽世
災害対策委員会	委員	札幌	牛田 健一

CPD認定プログラム(7月認定)

◆震災建築物応急危険度判定訓練

《日程及び会場》8月23日(火) 13:00~15:30
 浦河町生涯学習センター（浦河町）

《単位数》 3単位

《問合せ先》 北海道日高振興局産業振興部
 建設指導課建築住宅係
 TEL 0146-22-9293

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員
 専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■8月パスワード：Shi022

情報委員会委員長/森 勝利
 副委員長/前田 繁・立花智亜喜
 委員/今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌
 村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.300号

印刷 令和4年7月/発行 令和4年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011)251-6076番
 URL https://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011)811-7151番